

〈シーズン5〉2025年度 連続オンライン講座
「声」を封じられているこどもの生と性を巡る **4つの風景**

「『助けて』って言ったら、何か変わるの!? おとなは決めつけるだけで、何もしてくれなかった。自分で何とかするしかないと思っていた」（あるこどもの言葉）

私たちおとなの目には見えない世界に“沈んでいく”こどもの「ナラティブ」（語り・物語）を聴き、その心象風景を理解することができるために必要なものとは何なのだろうか？
「声」を封じられているこどもたちが生きている現実世界への理解を深めると共に必要とされる支援のあり方について、一緒に考えたい。

【第1回】性暴力とこども

2025年10月26日（日）

「性暴力が被害者から奪った『声』とは？
～現実&必要な支援～」

講師：岡 恵さん
（NPO法人ぱっぶす 理事）

【第2回】LGBTQ とこども

2025年12月7日（日）

「LGBTQのこどもたちの『声』を
封印するもの」

講師：松尾 由希子さん
（愛知大学文学部 教授）

【第3回】福祉とこども

2025年12月21日（日）

「福祉による支援はこどもを“幸せ”
にできるのか？」

※対談形式（聞き手：川口正義）
講師：松下 龍一さん
（静岡市保健福祉長寿局次長）

【第4回】おとなとこども

2026年1月25日（日）

「おとなはこどもから“信用”される
存在になれるのか？」

講師：横倉 裕子さん
（浦安市ソーシャルサポート
センター センター長）

<講座：13：00～15：30（12：45～ 受付）>

【募集人数】500名

【参加費】 無料

【お申込み方法】 裏面記載の各講座のURLあるいはQRコードよりお申込みください。

【お問い合わせ先】 terakoya.open.door@gmail.com

主催：独立型社会福祉士事務所 子どもと家族の相談室 寺子屋お～ぷん・どあ

共催：一般社団法人てのひら 一般社団法人静岡県社会福祉士会／こども家庭福祉委員会

■お申し込み

<第1回> 10月26日(日) 岡 恵さん
<https://kokc.jp/e/terakoya31/>



<第2回> 12月7日(日) 松尾 由希子さん
<https://kokc.jp/e/terakoya32/>



<第3回> 12月21日(日) 松下 龍一さん
<https://kokc.jp/e/terakoya33/>



<第4回> 1月25日(日) 横倉 裕子さん
<https://kokc.jp/e/terakoya34/>



■講師紹介

【第1回】 岡 恵さん(おか めぐみ)さん

NPO 法人ぱつぷす理事。社会福祉士。6歳の頃より地元(新宿・渋谷)の性的搾取産業、日本人による東南アジアの児童買春ツアーに問題意識を持ち、高校在学中に啓発活動を始め、大学では同問題の啓発団体の代表を務める。上智大学大学院グローバルスタディーズ研究科修士課程ではインドネシアをフィールドに、性的搾取を目的とした人身取引の調査研究を行う。2014年、同修士課程修了後、NPO 法人人身取引被害者サポートセンターライトハウスに所属。児童買春・児童性虐待画／映像の被害相談とアダルトビデオの出演や性産業に従事している方々の相談支援事業に務める。2018年6月より現職。2014年より人身取引禁止ネットワーク(JNATIP)運営委員。



【第2回】 松尾 由希子(まつお ゆきこ)さん



長崎県長崎市出身。静岡大学教職センターに15年間在職、現在は愛知大学文学部所属。研究テーマはセクシュアリティ教育、近世近代教育史など。中学生の時に「なぜ、同性愛の人にもいるのに教科書では異性愛者しか記載されないのだろう?」と思ったことが、研究のきっかけになる。現在、静岡市などと連携し、学校における性的少数者の研究、支援(子ども・保護者・学校の相談など)に取り組む。静岡大学LGBT サークル grandioseに関わり、2024年度にサークルが作成した静岡市内のLGBTQ フレンドリー企業一覧のアドバイザーも務める。

【第3回】 松下 龍一(まつした りゅういち)さん

1989年静岡市採用。教育～税務～経済分野を経て福祉分野へは2005年4月、生活保護CWとしてデビュー。児童福祉分野へのかかわりは翌年、女性相談員のバックアップとしてDV被害者への支援業務を担当することとなり、同伴児へかかわるようになったことが出発点。以降、児童相談所(初動対応係の係長)、駿河区福祉事務所家庭相談室(係長)、児童相談所(所長)として17年間、福祉の現場で子ども達とその家族にかかわる。その後、子ども家庭課(現子ども家庭福祉課)を経て2025年4月から現職。



【第4回】 横倉 裕子(よこくら ゆうこ)さん



メンタルにお悩みがある方の居場所である「浦安市ソーシャルサポートセンター」で勤務。学生時代はあまり大学には行かず、ボランティア活動に明け暮れる。ある年の夏、障がい児の療育施設のキャンプに参加し自閉症の男の子と過ごす。その出会いがきっかけで卒業後、知的障がい者の支援施設に就職。その後結婚・出産のため一時現場を離れるが、地元で社会資源を作りたいと思い親の会の方と共にNPO 法人を立ち上げる。10年ほど運営した後、法人の吸収合併、転職を経て現在に至る。愛知県出身。社会福祉士。保育士。